

刊夕 日十月九

常磐每日新聞

定額... 發行所 常磐每日新聞社 電話 六三〇番

警察官と佛教

真 繼 雲 山

佛教とは、すべての人に與へられた正しき人間の道であつて、誰人には必要であり、何階級には無用だといふことはないけれど、その人の信不信が、社會に及ぼす影響に至りては、他位職業によつて大小の結果を異にする。

中んづく平素、國家の治安に任じ直接、民衆と接觸しつゝある警察官が無信であるといふことは、それと交渉をもつ民衆に取つての大いなる迷惑である。囚人にさへ教誨師を常雇にして佛教を説いてゐるのに、その囚人の面倒を見る看守巡査が佛教を知らずして可なりといふ法はない。

囚人に信仰が入用なら、警察官には尙ほ更ら以て信念は必要である。その警察官が佛法の篤信者であることは、その管下の民衆に取つて、佛様を常雇にしてゐるやうなもので、これほど重寶な話はない。斯うした主張の私に對して、曩き頃、一つの挿話を報告された。それは山梨縣下の一警察署長が、私のやうな佛教好きであつたと見え、職務のかたはら修行した末、とうとう發信得道し

て退官し、本式に眞言宗の一寺の住職となつた何と奇特な事蹟ではないかといふ得々たる通信である。

その篤信は、別の意味において感ずべしとするも、その通信を手にした私は私の期するところと甚しく逕庭のあるのに失望した。可憐な少女の綱渡りを觀客は手に汗して喝采するが渡り切つてしまへば、面白かつたと感心しながらゾロ／＼と出てゆくだけである

鯉の瀧登りといふものを私は實地に見たことはないが若しさういふ事實がありとするなら、それは瀧を登つてゆく場面に千金の價値があつた鯉は、煮て食うより外に用はない。

渡りきり、登りきつてしまへば史實に過ぎず。史實は史實として別様の價値あるべきも、現實をはなれたものに私たちは現實の用事はない。前段の一警察署長も、その身、官界にありつゝ佛法を生かして行つてくれる場面を私は所望する。劍を珠數に代へよではない。右手に劍、左手に珠數を持つてくれよと祈るのである。

る。たゞ警察官の形にして僧侶の心たり得るものが少いことを私は憾みとする。佛教を奉ぜよ、信仰を求めよといふことは、ナニも、萬人よ僧侶になれよと勸むる意味ではない。むしろ僧侶といひ宗教家といふ職業者は無くもがなである。大乘佛教は必ずしも出家入山圓頂黒衣を所望せず、醫者は醫者のまゝ、驛長は驛長のまゝ、教員は教員のまゝ、

巡査は巡査のまゝ、萬人がその本然の姿、本有の職業のまゝで佛果は登れよと教へてゐるのである。大福帳即般若經、劍即珠數であることが尊いのであつて、商人が大福帳を捨て般若經を手にするなら、それは般若經即般若經であつて、何の變哲も妙味もな

き僧侶の増員に外ならぬ。佛教は、それ自体を實世間に生かすことによつて價値を生ずるので、劍を捨て寺に入つた坊さんには警察官としての頼みの綱は切れてゐるのである。佛教を卒業すれば佛様に相違なきも、その佛とは人間の姿をして世の中を救ふてくれるのでなくては私たちに交渉はない。

渡り切つたところに人生はなく、人生とは五十年の道中にある。綱の真ん中に

あれよ、瀧の半途にあれよ卒業して仕舞うてはならぬ否は、その半途にあつて眞實に生きることが、卒業したる本統の姿である。



静かな朝

須摩 孟夫

聞き入れれば聞き入る程に静かなり夏立つ朝の水のせゝらぎ

入營の友を見送り歸るさに我細さかひな淋しく見るも

味噌汁の中へななめに照る朝日我すこやかに生さんと思ふ

品物を買ふふりしつゝ越後獅子ラヂオの前に吾がたちて聞く

まゝならぬ人の家にてあぢもなく送る此の世も今はなれにし

廣 告

一冊の代金で御希望通りな五冊の雑誌が自由で讀める

川崎巡回文庫

電六三〇番 (申込次第規則書進呈)

耳鼻咽喉科専門 大和田醫院 平町南町 電話一七〇

藤沼醫院

内科・小兒科・花柳病科

平町南町 電話一七〇番

各種 體檢 胃腸計 電四〇番

玉屋洋品店 平町田町 電話六五六番

中村齒科醫院 平町鍛冶町七

新製節魚 産名城磐 魚問屋 最優最 志賀 大日本 命生 平代 店理 榮盛 番三一電 目四平

お醤油は... ヤマフル 醬油味噌 たひら 正宗 鯉節 食料品 鹽屋 山崎合名會社 福島縣平町(電話營業部二〇醸造工場) 明治生命磐城代理店 山崎與三郎

有権者資格の

調査を開始

本月十五日現在で
名簿を調査

平町役場では本月十五日現在を以て町會並に衆議院議員選舉有権者名簿を調製するため近く各區長を通じて全市民に資格申告書を配布し十七日迄に申告書の取纏めを行ふと

商友會總會を開き

會長を正式に決定

萬雷の拍手に迎へられ

菅本氏會長就任

既報平商友會臨時總會は昨日午後七時よりマルトモホールに於て開かれ出席者七十餘名にて先づ副會長室橋光氏の開會の辭に始まり

直ちに會長選任の件

に入つたが土屋好守氏の動議に依り委員附托となり議長の指名にて左記の如く委員を決定

- 鈴木武男 金子浩三 里見榮一 牛久英 宮川義一 中根義男 木田謙二 坂本忠治 丹野六郎 武藤一義

別室に於て協議の結果會長として現會計菅本利雄氏を推薦する事に決定鈴木氏より此旨を全會員に報告し

同意を満場拍手を以て

表示續いて新任會長菅本利雄及び新顧問平商業學校長矢野泰次郎兩氏

平商第一回の卒業生、久しく商友會會計の衝に在つて煩瑣な金銭出納に従事し未だ一回の誤りも生じた事のない實直な性格に人望を集め今回の推舉を見るに至つたものにて現在は父君の業を補け米穀商として朝夕懸

ドッチボールに

出場兒童十二組

既報縣下各小學校對抗ドッチボール大會の申込締切は来る十五日であるが本日迄の申込数は尋常科は湯本、久之濱、草野、平第一A、B、Cの六組、高等科は内郷A、B、久之濱、平第一A、Bの六組にて締切迄には各十五組宛に達するであらうと見られてゐる

職員と生徒

勝負恨みなし

既報警城高等女學校職員對生徒の競技試合は昨日午後二時より行れたが、戦績は庭球三對二、陸上二對一で職員側辛勝し排球三對零、籠球二對一〇で生徒側大勝した因に庭球のスコア

四家元訓導

同情寄附者

既報平第二小學校元訓導四家安男氏の不遇なる生活に對し各方面より寄附の申出であるは既記の如くであるが本日迄に其額四十圓に達した寄附者氏名は左の如くである

- 磐城中學校内名尾嘉作 古鍛冶町木澤常松 才穂小路阿部政右衛門 平青年團長多田井笑次郎 平第一職員一同 五丁目井上貞次郎 三丁目梅原敏子

命に働いて居る

磐炭各坑野球

石城郡内郷村磐城炭礦健康保險組合では明十一日午前九時より高坂グラウンドに於いて組合員の各坑對抗野球大會を行ふ筈

は左の如くである

職員	生徒
酒井 3	渡邊 0
佐藤 3	松永 0
安延 3	三瓶 2
田中 3	熊 2
淡路 3	前田 2
穴井 2	遠藤 2
永盛 2	菅野 3
志村 2	戸來 3
中川 2	石川 3

竣工式の

期日其他

水道委員打合 平町にては本日午前九時より會議室に於いて水道委員會を招集竣工式期日其他を協議したが十九日頃になる模様である

梨果出荷協議

石城郡大野村果樹組合では明十一日午後一時より小學校に於いて協議會を開き梨果の共同出荷に就いて協議をなす

平町人事

△鷹匠町一當時石城郡神谷村字岸金成春陽氏長女紀子

△石城郡好間村山下五八三浦芳勝(二五)氏 古鍛冶町八小野喜代子(二二)

回 婚 姻

△彌宜町五三推貝節子四ツ

匪賊 掃蕩 夜話 (9)

滿洲奉天駐劄 軍曹 矢野重光

連絡兵の一日

今日は連絡兵だ。分隊長「第一連絡兵は尖兵より百米を取るんだ」ハイ甲「モウ今日は五里歩いたね戦反、何んだつて峠ばかりあるだらう」戦友「毎日、かう十里づも歩かされてはやり切れないな……」

甲「それに今日は首と足が協同して居ないんだ、首より足の方が歩き方が遅いんだよ」戦友「何んだつて人間にこの様な体に變化が出来るんだらうね」

甲「俺は一寸も疲れては居ないんだけど足の野郎が思ふ様に歩かないんだ」戦友「オイ……さつきから見てみると時計を何べん見るんだ」

甲「ナニニ自分の時計を自分で見るのに文句はあるまい」

甲「ア、今五分で休憩だぞ後を見る兵は皆同じだぞ」汗はだく、首を長くして居る處を見ると此の味は變りないよ。此んな時冷たいビール一杯も呑んだらな全く千兩の味があるんだが大刀會の住家では仕方がない……」

を發つたんだらう今日は廿日俸給日だぞ」甲「ア、そうだ、そう言はれると何んだか腹の虫がうなり出したと思ふた、奉天が戀しくなつたね。大刀會の野郎出るなら早く出れば良いのに出發後一度も姿を見せないではないか」



旭硝子株式會社製出品

- 板ガラス
- 硝子壺
- 硝子食器
- 其他各種

松崎硝子製作所

平町新川町(電話一四二番) 仙臺市榮町(電話五九七番)

新製 品

コーヒー通の待望せる 挽立コーヒーの快味

コーヒー發賣

グアテマラ コーヒー三割五分三種配合
ジャマカ コーヒー三割五分
速席挽立てを差上げます

大勝園コーヒー部

電話三九六番

木村科醫院

平町五丁目橋際 電話三〇〇番

難波醫院

平町新川町 電話五〇二番

俄然慘落

四倉の繭市場

四倉繭市場の取引相場は開所以來豫想以上の好成績にて五十圓台を前後し養蚕家を狂喜せしめて居たが昨日より俄然四十三圓に慘落を見た當日の成績は白繭百二十五貫で最高四十三圓四十錢、最低二十九圓五十錢、買馴三十八圓八十錢と云ふ急天直下振りに晩秋繭六十

刑餘者に

慈愛の網

保護宣傳デーに
平自營會活動

平自營會にては来る十三日司法保護宣傳デーに當るの當日は夫々自動車に分乗し「同情なきドン底に落ちて居る刑餘者を慈愛の網で引き上げませう」と印刷したビラ數千枚を管内全部に撒き大いに宣傳する事になった

高過ぎる

辨當料に

申立相たたず
周旋業違反の公判
既報石城郡上遠野村大字上遠野字西大澤一番地土工田中巳之助(三)が本年三月中旬無免許にて同村植田信子外

と辨當代に費消して仕舞つた」と申したが夫れにしては高過ぎると取上げられず、検事より略式命令通り罰金二十圓を求刑されたが判決言渡しは来る十三日である

圖書展

第一校で開く

平第一小學校にては来る十四、十五の兩日講堂に於て全校生徒の夏季課題圖書展覽會を催すと

トラック暴れ込む

電柱を倒した揚句人家へ

平町田町野崎自動車部運轉手佐藤一男(二)は昨日午後十時頃魚類を満載したトラック一四八九號を運轉東京へ向つて疾走中尼子橋を渡り内郷村小島地内に入るや操縦を誤り電柱に衝突是れを倒し勢ひ餘つて傍らの民家鈴木信政宅に侵入硝子窓等を破壊し大騒ぎを演じたが幸ひ怪人は出さなかつた

機械倉庫に

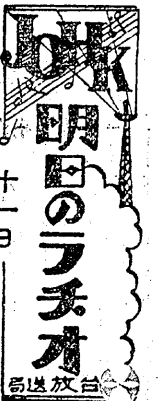
職工忍入る

石城郡内郷村字一の坪居住磐炭製煉作所職工渡邊長治

帯鋸で指を挽く

製材職工の奇禍

石城郡赤井村大字高萩字小路尻白川尾製材工場の職工伊藤尊志(三)は去る五日午前八時頃板制作業中誤つて



今晚北西の風晴
明日は南西の風晴時々曇り

今晚の部

- 後六、〇〇「子供の時間」お話と唱歌福島縣本宮尋常小學校児童
- 後六、三〇「山と海の講座」『月山の地形』山形高等學校教授安齊徹
- 後七、三〇「講演一國民更生の根本精神」文部大臣鳩山一郎
- 後八、〇〇「謡曲「富士太鼓」梅若龜之外
- 後九、〇〇「祭り囃子宮城縣登米町有志
- 後九、三〇「滿洲より」滿洲音樂
- 全國ニュース 氣象通報 番組豫告
- 明日の部
- 前九、一〇「祭養料理」南

二宮翁銅像

本多氏彫刻

平町道匠小路居住彫刻家本多朝忠氏は今回相馬郡中村町第二小學校校長佐久間善之進氏其他に依つて組織された吉辰會計劃に依る二宮尊徳翁銅像建設の彫刻方を懇望され十一月頃迄に原型の製作をなすべく目下準備中

秋風吹いて

家出人多し

昨日は一時に三件
秋口に入つた近頃の平署には毎日家出人の搜索願相次ぐが昨日は三件の願出があつた茨城縣水戸市市川和田横町五七〇五淺吉の三男神樂師大高勇吉(三)は六月頃より見習に住込んだ福島縣若松氏生花澤キ(三)と本月五日行衛を晦しました南會津郡旭田村大字松川字上ノ村清藏次男渡邊新次郎

生花の講習

平女三ヶ月延期
年團主催の會員生花講習會は本月限り閉會する筈の處會員各自の希望により後二

接客業者の

健康診断を行ふ

来る十五日から十日間

平署では本月十五日より廿五日頃迄の豫定で全管内の接客業者を招集し健康診断を行ふ事となつたので近く郡醫師會と診察日割並びに受持區域等に就いて協議すると

ガソリン

問題協議

不買同盟結束

昨報平署管内縣自動車協會磐城支部ではガソリン値上の對策上支部員の一一致せる意見を決定すべく本日午後一時より平署會議室に於いて總會を開會したが米國産不買同盟の結束に入る模様であると

- 平職業紹介所報告
- 求人者の部
 - △自動車修繕工 二十五才 尋卒 日給五六十錢(平町某)
 - △豆腐製造見習 十八才 尋卒 月三四圓(平町某)
 - △農夫 四十才 尋卒 給料面談(小名濱町某)
 - △豆腐賣子 三十才 賣上 の二割(原の町某)
- 回求職の部
 - △牛乳配達 二十三才 商工學卒 給料面談(郡山市某)
 - △女中 十八才 尋卒 給料面談(入遠野村某)
 - △餅屋見習 二十五才 尋卒 給料面談(石川郡某)



【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第四百十八席 女流劍客里見靜枝

里見蘭討の企み

長谷部傳藏は脇腹をさす

傳「ア、痛い／＼ミリ／＼音がするやうだ」
これを聞いて秋田丈助に

傳「脇腹の痛む程祝酒を飲んだか、さても羨ましき事だ」
傳「コン何を云ふ、酒を飲んで腹を痛めたわけではないぞ、今日の試合でナ」

傳「それが大變だ、貴公も知る如く里見の許に参り七重の膝を八重に折り首の骨の痛くなるまで頭をさげて試合の節は勝を譲りくれと頼んだ、それを承引さし事ゆゑ今日の試合は大丈夫俺が勝利と思つた事がガラリと外れ、先づ最初木劍を打落されたさては恠うして署いて組打ちにて勝を譲りくれるものと思ひや、ツと云つて組付くとバツと投げられたが、その早いこと俺が組付くと同時に腕を捻あげられてボンと飛ばされた」

傳「それは怪しからん」
傳「實に怪しからん奴だ投げられたからこれは大變と身を起さうとした處を掴へ

丈「驚いたであらう然し御身は體術は起倒流をよく取る、直に刎ね返して里見を

傳「左様さ、俺もさうするつもりで刎ね起さうとしたが兩膝にて脇腹を締附け

まじき仕業だ、なぜ斬つて棄てぬ」
傳「馬鹿な事を云ふな俺の刀で死ぬやうな里見ならばこんな見苦しき敗れは取らぬ、老人なれど氣力も強く又技も冴えてゐる」

丈「憎い奴だな、負ては立花侯に奉公することもなるまい」
傳「それはナ、俺を推舉致した宮本佐仲の申すには何とか取成してやりたくは思ふが如何にも負方が見苦しい、夫故取成す事も出来な

傳「然らぬと諦めて又來る事はない」
傳「それはナ、怒るナ、怒るナ、成る程里見の致し方も宜しくないが此方も宜しくない試合に勝を譲りくれないも間違つて居る、然すれば里見を怨むは筋違ひ、とは云へこの試合に負た爲めにやう／＼上りかけた立身の梯子を踏外した」

傳「それが残念だ、どうして呉れよう」
丈「この上は里見主計を討放してこの怨みを晴らすよ

傳「然らぬ、斬つてくれ」
丈「然し三人か、ればとて尋常の勝負では里見を斬ることはむづかしい」

傳「それではどうする」
丈「恠ういふことにしては」

と四邊を窺ひ覗いた
傳「ウン、さうだナ、暗夜の礫は防ぎ難しと云ふ事もある、それが宜からうが」

丈「何してもその身體では刀を抜くことも出来まい、療治をいたし恢復いたした後に非常手段を行はう」

傳「どうぞ助勢してくれ」
惡漢共は里見を殺さうと其手段を講じた、ところで傳藏は手當を加へたが療治代

て來た、この凶事の爲に貯へ置いた一分に生別れを致した」
丈「何としても憎い奴は里見主計、武士たるものが一旦承諾いたしたをこの場合に違變いたすとは卑怯千萬ウン」
と唸つたが其時數下平八



られてゐるから起きる事が出来ない、其中に首を舐へられてペロ／＼砂を嘗めたが、驚いた驚いた」
丈「それはいよ／＼怪しからん、勝を譲ると堅く約束致し今に至つて違變いたすとは不届至極、武士である

果報を寝て待てとの事だ、折角押へた出世の綱を茲で放してしまつたよ、ア、痛い／＼、それからナ、スゴ／＼と邸を出たが御徒町から貝塚まで歸る事が出来ぬよんどころなく筋違ひの見付で辻賀を雇ひ之まで戻つ

に差支て脇差を賣拂つた、それは三兩二歩、刀は武士の魂、如何に零落すればとてこれは放さぬと威張つてゐたが焦眉の急を救ふのは魂に別れねばならぬ、然し三兩二歩とはさても安價な魂、六十日餘り療養したその甲斐でやう／＼恢復いたした、茲で三人は忍び／＼に里見主計の隙を窺ひ居る古人曰く馬鹿は隣の火事より恐い、これは名言です、主計はかゝる危険が身に迫るとは少しも知らぬ。

御料 鹽 豚

町田三三三屋

電話三三三番

印刷物の御用命は總て
常磐毎日印刷株式會社
電話六〇三番

金銀高價買入
根本時計店
平町田町丸新デパート

専門 内科一般
川井内科診療所
電話一八一番
女 醫 川井重子
女 醫 川井安子

吉田眼科病院
正徳屋町、電話六八八番